

スクラップブック作成による学習の有効性

ギュンター 知枝

徳島大学教養教育院 非常勤講師

1. はじめに

第二外国語としてのドイツ語を2年連続で学習させる場合、2年目も文法と、「読む」「聴く」「話す」「書く」の4技能が互いに連携せず、テキストも例文も内容は全くの他人ごとという授業を継続してしまうと、学生が授業の意義や目的が感じることができず、各課が終わるごとに学習した内容を忘れていくという残念な結果になりかねない。

そのため本年度は、昨年度に習得したドイツ語を活かして、短期的ではあっても意義のある授業を行う必要が出てきた。

ちょうどいいタイミングでスクラップブックの作成を利用し、4技能の統合化に適した英語の教材に出会い、ドイツ語に置き換えての実施が可能だと判断したため、スクラップブックの作成とプレゼンテーションを実施して学習させることにした。

以下にその要点をまとめる。

2. 実施対象と期間、使用教材など

実施の対象となったクラスは薬学部2年生25名。ドイツ語は昨年度に前期後期通して学習しており、今年度は2年目である。

この発表は2017年4月から同年10月末までの期間に関するものである。(授業は継続中)

使用教材は、1年時から使用しているテキストブックと文法の参考書、新たに加わった、よく使う言い回しの解説の参考書(巻末の単語集が秀逸)、講師(ギュンター)の自作の文法解説動画とプリント。

3. 考察の内容と調査方法

今回調査を行ったのは、スクラップブックを作成してプレゼンテーションを行うという授業内

容が、4技能の統合に実際に役に立つのか、学生自身の実感はどうなのかを知るためである。

調査方法として、毎回の授業後に付箋に無記名で授業の感想を書いて教卓に貼って帰らせたことと、授業に関する実感のアンケートを10月半ばに行った。また、成果物としてのスクラップブックも回収し、内容を調べた。

4. 授業の詳細と評価

授業では各自にA4の画用紙を配布。表に絵を描いたり写真を貼ったりして、聴き手に視覚的な情報も提供するように指示した。

4月より「自己紹介」「旅行」「食べ物」「将来やりたいこと、なりたいもの」のテーマを順番に与え、現在最初の3つのテーマについての作成が終了しており、2つについてはプレゼンテーションも終了している。

準備として実施したことは

- ・作った文章が正しいかどうかのチェック項目のプリントを配布して説明。
 - ・スマホとイヤホンを持参し、発音の解説動画を観ながらノートをとる方法を指導。(あとでプレゼンテーションの発音に活用)
 - ・質問のフレーズを学習させる。
- の3点である。

授業の流れとしては

- ・作文させる。教師は巡回して質問などを受け付ける。
- ・ある程度作文できたら、書けた文章の発音ができるか、発音のノートでチェック。
- ・隣の学生とペアになり最初の5行を互いに1行ずつ読む→質問する→質問に答える(聞き取れない場合にはもう一度言ってもらう)を繰り返す。教師は巡回して質問に答える。
- ・仕上がるまで続きを書く。

・教師と4~5名の学生の前でプレゼンテーションを実施。

これが1つのテーマについて終了するまでの流れである。

ただし、質問の解説の共有と、ずっと作文して煮詰まって来たころには文法解説も行った。

調査と、質問対策を兼ねて、その時感じたことや不明な点ができるように毎時間の終わりに学生に、無記名で付箋に感想を書かせて教卓に貼って帰らせるようにした。

また、時間が経過してからの、学生の実感を知るために無記名のアンケートを実施、実際の作文内容を知るためにスクラップブックを回収した。

付箋のコメントの内容としては「ノートのとおり方が参考になったので他の教科でも利用したい」(ノートのとおり方を勉強したあと)「発音ができるようになってきた」「語順がまだよくわからない」「ドイツ語に直せるような日本語を書くのが難しい」「質問のしかたがわかるようになった」(質問しあったあと)などで、語順などは、コメントがあった次の授業で語順の解説プリントを配布して解説を行った。

また、副詞や「もし○○だったら」など、作文に使ってニュアンスを文に加える方法を解説した授業の後には「言えることが増えたので色々な文章を作りたい」などのコメントもあった。

「いつ倒置になるのかわからない」「聞いた単語が名詞なのか動詞なのかわからなかった」など、自分が何がわかっていないかが明確になって来ていることを示すコメントもみられた。

アンケートでは25名のうち20名が回答し

- ・スクラップブック作成が有意義だという学生の割合が75%
- ・ドイツ語でスクラップブックの作成とプレゼンテーションは必要だという学生が70%
- ・現時点までのドイツ語授業が有意義だと感じる学生が100%
- ・現時点でドイツ語を理解できているという学生が65%

という結果で、第2外国語であり、特に将来使用する必要がないにもかかわらず、意義を見だし

モチベーションを保っている学生がかなりの割合存在することがわかる。

また、成果物であるスクラップブックを回収して内容を確認したところ、約半数の学生が、主文と副文のあるやや複雑な文章を使っていたり、学習した範囲以外のことを書こうとしていたりしていた。これは、例文の単語を入れ替えて作文することしかできていなかった1年生の頃から見ると、非常に進歩したといえる。

プレゼンテーションでも、棒読みであっても内容を理解することができるような発音で発表できた学生が7割で、残りの3割も、内容を確認すると、作文はできていて発音に問題がある学生がほとんどであった。

5. まとめ

以上のことから、スクラップブックは4技能を鍛える良いツールであるといえる。

スクラップブック作成の一番のメリットは、スクラップブックを作成するという目的を達成するために、様々なアクティビティーを意味のある形で授業に取り入れることができることであろう。

プレゼンテーションに必要な発音の練習をするために動画を視聴しながらまとめのノートをとる方法の学習、また、作文に必要な文法事項の学習とペアでの例文作成の練習、自分で考えた内容をドイツ語で書くこと、二人一組でのプレゼンテーションで互いに「発表すること」「聞き取ること」「不明点を質問すること」「質問に答えること」というインタラクティブなやりとりを体験すること等、すべてが目的によってつながっており、学生はその中で得意なパートで力を発揮することが可能である。

また、視覚情報があるため、説明文を書くのが比較的簡単で、聴く側も想像力を発揮しやすい。

一方、プレゼンテーションの評価の基準をどう定めるかは難しい問題で、現時点では「発音」「音量」「文法的正確さ」「チャレンジの有無」などを採点基準にしているものの、より個人の感覚に左右されにくい基準を探っていく必要を感じる。